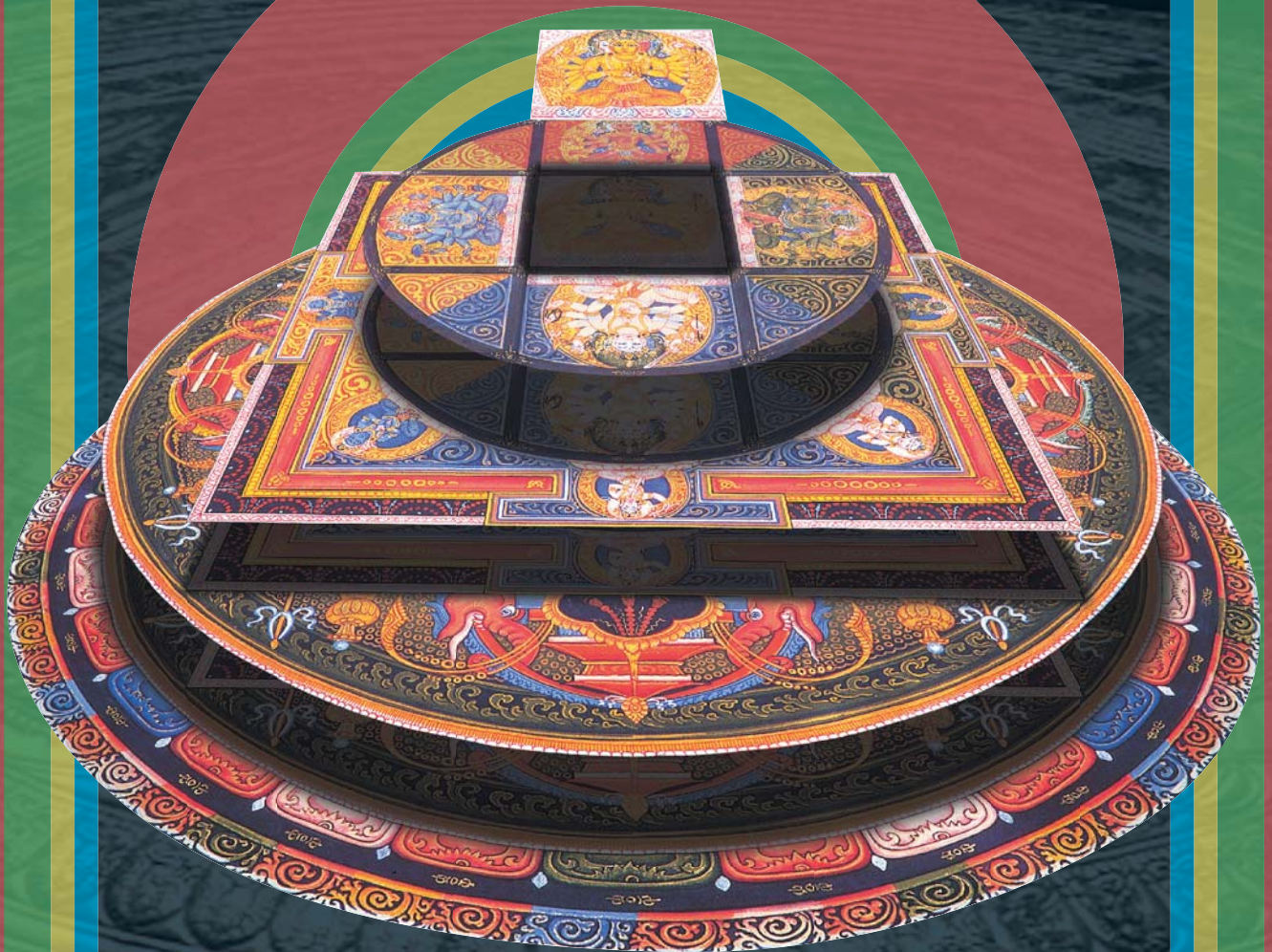


文化庁「地域文化芸術振興プラン」

Mandala: Deities of Tibetan and Nepalese Buddhism

マンドラ

—— チベット・ネパールの仏たち ——



2009年12月12日[土]—2010年2月7日[日]

● 開館時間：9:30～17:00

- 休館日：毎週月曜日（ただし1月11日(月)は開館、1月12日(火)が休館）、年末年始（12月28日～1月4日）
- 観覧無料 ● 主催：文化庁・国立民族学博物館・徳島県立博物館・財団法人千里文化財団・徳島県民文化祭開催委員会

 文化の森総合公園
徳島県立博物館

〒770-8070 徳島市八万町向寺山

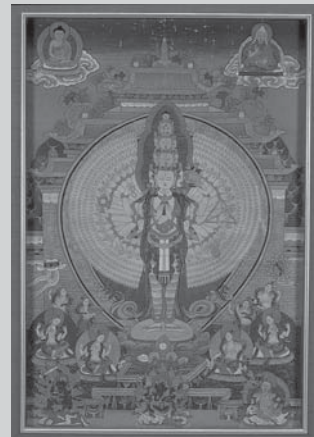
TEL088-668-3636 FAX088-668-7197 <http://www.museum.tokushima-ec.ed.jp>

マンダラ

チベット・ネパールの仏たち



ヨーギニー



千手観自在(観音)

マンダラ、およそ1500年前にインドで生まれ、ネパール、中国などに伝えられ、日本にも空海たちによってもたらされました。

マンダラは悟りを求めて修行する際の心の案内図の役をしたり、弟子が入門するときの儀式などに用いる道具あるいは舞台装置となったりします。

そこでは、身体は自己という心の空間と密接に結びついた一つの宇宙、一種のマンダラと考えられています。修行者は身体という場において、自己と宇宙との同一性を



阿弥陀如来



大日如来



不空成就如来



宝生如来



阿閼如来

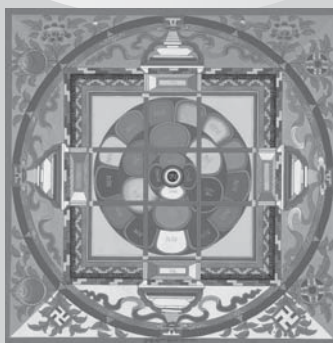
を経験します。身体という宇宙は心を含む袋であるとともに、背骨が須弥山であり、肉は大陸、血管は河川、血はそこを流れる水というように、大宇宙との相同関係をもっています。

そのため、宇宙も、われわれの身体も、さらにはひとりひとりの心もマンダラと呼ばれます。マンダラは、宇宙と身体と心が元来は同じものであることを体験するための道具です。

マンダラとそこに住まう神がみの空間で、ゆっくりとくつろいで自己と世界を感じとってください。



水牛の魔神を殺す女神(ドゥルガー)



悪趣清浄マンダラ



シヴァ



文殊菩薩



ガネーシャ



ラクシュミー木彫板